

1 年

1 学期の成果と課題	
1 生活指導全般	<ul style="list-style-type: none"> ○登校状況は概ね良好である。 ○授業のルールを守ろうとする意識は保っている。 ▲自分から挨拶をする生徒も多数いるが、声をかけられるまで何も言えない生徒も多い。
2 学習指導全般	<ul style="list-style-type: none"> ○ほとんどの生徒は、落ち着いた授業を受けている。発表や発言も多く、意欲的に授業に取り組む生徒が多い。 ○2分前着席は、推進委員の取り組みにより、おおむね意識でできるようになった。 ○家庭学習では、自学ノートの取り組みがおおむね定着してきた。 ▲授業準備ができていない生徒が一部に見られる。
3 特別活動全般	<ul style="list-style-type: none"> ○学校生活に対する自分たちの課題を推進委員で考え、改善するための企画・実践ができた。 ○推進委員で考えた企画の振り返りや反省をし、改善ポイントを追加して取り組みを行うことができた。

2 学期以降の重点指導項目

〈生活〉	<p>時間や提出期限を守ることの必要性や挨拶を交わすことの大切さを再認識させ、時期ごとに重点項目を設けながら徹底を図っていく。特に、自問清掃に取り組むまでの黙想の時間に間に合わず、落ち着かない雰囲気が続いている。学年職員全体で声掛けをしながら、生徒の意識向上を図りたい。</p>
〈授業〉	<p>授業に取り組む姿勢や家庭学習に対する意識が低い生徒に対して、個別支援を学年で共通理解を図り、支援していく。</p>
〈特活〉	<p>推進委員会の企画を計画的に設定し、学年生徒の現状に応じた生徒主体の活動を設ける。</p>

2 年

1 学期の成果と課題	
1 生活指導全般	<ul style="list-style-type: none"> ○学年の6～7割近い生徒は、朝の挨拶が徹底されてきており、会釈も出来る生徒も増えてきている。 ○多くの生徒は、落ち着いた態度で授業に取り組む、部活動にも積極的に参加している。また、学校のルールや社会のマナーを意識して過ごしている生徒も多い。 ▲気になる生徒（不登校関係・問題行動関係）が増加傾向にあるため、相談室やカウンセリング等を利用しながら、心のケアを含め生徒一人ひとりに対する細やかな生徒指導及び教育相談が必要である。
2 学習指導全般	<ul style="list-style-type: none"> ○推進委員会と連携して、授業の始めと終わりのあいさつへの意識の改善を進めることができた。 ○自学ノート強化週間や掲示による啓発活動により、自学ノートの内容が改善され、SランクやAランク評価の生徒が増えてきた。 ▲提出物が滞る生徒が一部見られる。

3 特別活動全般	<p>○ベル学スタートの取り組みなど、リーダーがいま必要な課題を見極め、適切な方策を考え実行できている。</p> <p>▲夢や目標をもてない生徒が微増している。行事の振り返りや普段の委員会活動、係活動などで自己有用感をもてるような取り組みをすすめていく。</p>
----------	---

2 学期以降の重点指導項目	
<p>○リーダーと、それをサポートするフォロワーを育て、質の高い学年集団を目指す。（行事、部活動、生徒会活動などで意識的に仕掛ける）</p> <p>○キャリア教育を通し将来の夢や目標を持たせていくことで、授業を大事にする姿勢と基礎学力向上への意識を高める。</p> <p>○学年集会などで、生徒会役員、推進、部長などの活躍の場を意図的に設定し、学年全体で支えていく雰囲気醸成する。</p> <p>○不登校・不登校傾向の生徒、教室に入れない生徒、問題行動を起こす生徒、その他支援を必要とする生徒に対する個別支援を、共通理解のもと学年全体で取り組む。</p>	

3 年

1 学期の成果と課題	
1 生活指導全般	<p>○学校のルールや社会のマナーを意識して生活している生徒が93%であり、一部を除く多くの生徒が身なりや時間を意識して生活している。</p> <p>○最終学年として各行事への意欲が高く、リーダーを中心に活動を進めることができた。</p> <p>▲登校時間の少し遅い生徒が見られる。高校受験やその後の社会に出てからを意識させるよう指導していくことが必要である。</p> <p>▲自問やあいさつなどの肯定的評価が高くない。生活基盤となる習慣や考え方、行動を意識した指導をしていきたい。</p>
2 学習指導全般	<p>○学ぼうという気持ちをもって、授業に参加できている生徒が増え、授業は全体的に落ち着いてきた。</p> <p>▲考えの深化、広がりが必要な問題、理由や根拠を答える問題などでは、無答の生徒が多い。</p>
3 特別活動全般	<p>○推進委員会で、自分たちの現状を踏まえ、よりよい集団となるために企画運営を考えて実施した。</p> <p>▲取り組み期間が終わると意識が薄れて、元に戻る生徒が多かった。リーダーの継続した声掛けができるように意識づけをしていきたい。</p>

2 学期以降の重点指導項目	
<p><生活>受験に向けて、「聴く」こと、「呼応」することを通して集団の一員として主体性を持ち学習や行事に取り組んでいける学年集団にする。</p> <p><学習>シート学習を継続して行い、生徒に合わせた家庭学習の習慣をつくる。自ら学ぶ雰囲気づくりのために放課後の自習教室を設定する。粘り強く考えることを意識した授業づくりを行う。</p> <p><特活>行事などを通して、生徒の成長や良さを認め、褒める場面を積極的につくる。</p> <p><進路>進路決定に向けて、情報の提供や相談などを個に応じた丁寧に行う。</p>	

教務部（中間評価）

成果と課題	<p>【重点目標】 「重点目標」の周知が不十分。</p> <p>【各種会議】 日程検討により会議や業後の活動時間を確保してきた。</p> <p>【楽しい・安心】 「楽しい」について1・2年生での低数値。</p> <p>【情報発信】 生徒が配付物を渡さず、保護者へ学校情報が届いていない現状が見いだせる。</p> <p>【最終退校時刻】 肯定的評価微増も、否定的評価が5分の1を占めている。</p>
-------	--

2学期以降の重点項目	
	<ul style="list-style-type: none"> ○各学年・分掌で「重点目標」を意識した活動となるよう周知・確認する ○「各種会議」日程を共有し、各主任を中心に職員間の情報共有・日常的な協議体制を重層化し、諸会議の有用性を向上させていく。 ○1・2年生の「充実感」向上にむけて、総合・学活や日々の活動内容を検討・実施する。 ○配付物の重要性について、適宜、各クラスで指導されるよう、各学年で意識の共有を図る。 ○「なくす・へらす・変える」を運営委員会を中心に、各分掌・学年での取り組みにも適用していく。

研究学習部（中間評価）

成果と課題	<p>【学習指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「聴く」「姿勢」を中心とした授業規律を整え、積極的に授業に臨んでいる。 ○家庭学習については、予習・復習や学習方法について具体的な指示を出していく。 ▲「授業はわかりやすい」が低下したことに課題がある。 <p>【キャリア教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全体的に進路学習の取り組みに対して保護者への周知が徹底してきている。学年だより、進路だよりなどで、内容や生徒の振り返りを伝えられた。 ▲将来の進路実現に向けてさらに意識を高める必要がある。 <p>【道徳・人権教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○年間指導計画を基に各学級の実情に合わせて授業を行うことができています。 ▲道徳の授業改善や評価に関して、職員会議等での提案が適宜必要である。 <p>【情報教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1人1台PCが整備され、授業でPCを用いる先生方が増加した。生徒が学習を進めていく上でのツールの1つとして使用する頻度が高まっていることは成果である。 ▲使用方法の習得、リテラシーの習得いずれも育む必要があり、さらなる使用機会の増加を期する。
-------	---

2学期以降の重点項目	
	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒がわかった、力がついたら実感できるような授業改善 ・生徒自身が理由や根拠を持って学習に臨むための指導 ・主体的に学び合い学習ができる指導の工夫 ・計画的な家庭学習の充実 ・道徳の評価に向けた振り返りシート、授業記録表の活用

生徒指導部（中間評価）

成果と課題	<p>【生徒指導・教育相談】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒指導上の対応では「生徒の話を聞くこと」、「ワンランク上の保護者対応」をポイントとして実践できた。 ▲「学校には悩みを相談する先生や大人がいる」が49%であることから生徒指導に関する対応が、すべての教師によって、すべての生徒、すべての保護者に対して行われるように意図的かつ計画的に工夫していく必要がある。 ・あいさつに関しては上記の通り、教師が感じるものと、生徒や保護者が思っているものに大きな差異が見られる。 <p>【自問清掃】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自問清掃を本校の学校教育における軸とするために、変容が感じられるようにしていく必要がある。
-------	---

2学期以降の重点項目	
1	すべての生徒に対する生徒指導・教育相談の実践 (1)すべての教師がすべての生徒を対象に行うルール、身なり等の“声かけ指導”の徹底 (2)教育相談アンケート実施後、すべての生徒を対象とした学級担任との個人面談の時間の確保（面談週間等の設定） (3)生活ノートやいじめに関するアンケート等での気になる生徒の保護者との連絡
2	道徳教育や特別活動などと連携したあいさつ指導の充実
3	自問清掃について、教師が共通理解し、共通行動をとれるようにするための工夫

特別活動部（中間評価）

成果と課題	<p>【生徒会】</p> <p>○生徒会目標である「第一次野っ中華革命～色彩豊かな学校へ～」の通り、何事も革新したい意識が高い。自分たちや生徒全体がコロナ禍でも楽しめる行事や取り組みを積極的に考え、実行していこうとする姿勢がみられる。</p> <p>○生徒会ラジオ、アイシティへのコンタクトレンズの空きケースの回収、暑中見舞い企画など、初めて取り組むことが多かったが、生徒会役員が主体となって取り組みや段取りなどを考えて呼びかけなどもしっかり行えた。</p> <p>▲やや準備不足、時間不足になる点は否めない。計画的に取り組みを進めていく必要がある。</p> <p>【委員会】</p> <p>○執行委員会を復活させたこと、また生徒議会での答弁の必要性を高めたことで、委員長一人ひとりの「自分たちが委員会を引っ張らなければならない」という意識が高まった。</p> <p>○各委員会の取り組みなどの周知が放送や教室での各委員からの呼びかけで活発になってきた。</p> <p>○学級討議の形を変えたことで、時間がかかるなどの混乱が多少生じたが、学級討議や生徒議会での話し合いや検討は活発になり、結果として委員会の提案も精選され、吟味されたものとなってきている。</p> <p>▲生徒議会での質問をどのように生徒にフィードバックしていくかが不透明であった。しっかり決めて返せるようにしたい。</p> <p>【推進委員会】</p> <p>○各学年が、自分たちの学年の課題を解決しようと学年ごとの取り組みを積極的に行うことができた。また、その活動が掲示などで目に見える形となっている。</p> <p>【学級活動】</p> <p>△運動会や合唱コンクールなどの係決めなど、学年裁量や学級裁量で行う時間がとりづらい。</p> <p>▲学級独自のその時必要としている課題について解決する時間などがとりづらい。</p>
-------	---

2学期以降の重点項目	
①	運動会や合唱コンクールなどの行事を通して、教科学習等では見られない生徒の良さや成長を認め、褒める場面を教員が積極的に作る。 →『自分にはよいところがある』の向上
②	運動会や合唱コンクールなどの行事を通して、生徒間で互いを尊重したり認めあったりするような振り返りの時間をとり、掲示や放送をする。 →①と同じ
③	生徒一人ひとりが自己有用感を感じることができるような取り組みを計画的に実施し、教員側がどのように関われば良いのか、また何を狙った活動なのかなどを周知徹底できるようにする。 →『生徒が有用感を得られるように、行事などの指導を工夫している』の向上